

- For more records, click the Records link at page end.
- To change the format of selected records, select format and click Display Selected.
- To print/save clean copies of selected records from browser click Print/Save Selected.
- To have records sent as hardcopy or via mail, click Send Results.

<input checked="" type="checkbox"/> Select All	<input type="checkbox"/> Clear Selections	<input type="button" value="Print/Save Selected"/>	<input type="button" value="Send Results"/>	Format
				Display Selected <input type="text" value="Free"/>

1. ☐ 7/5/1

012266561

WPI Acc No: 1999-072667/199907

XRAM Acc No: C99-021734

Hair treatment composition for brightening colour tone of hair or for dyeing hair in good shades - comprises guanidium salt, alkalising agent other than guanidium salt and silicone

Patent Assignee: KAO CORP (KAOS)

Inventor: KAWAI T; KURE N; MATSUNAGA K; NAGASE S; OGAWA M

Number of Countries: 027 Number of Patents: 006

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
EP 890355	A1	19990113	EP 98112301	A	19980702	199907 B
JP 11029443	A	19990202	JP 97183634	A	19970709	199915
JP 11180837	A	19990706	JP 97352956	A	19971222	199937
US 6071504	A	20000606	US 98112056	A	19980709	200033
EP 890355	B1	20010530	EP 98112301	A	19980702	200131
DE 69800854	E	20010705	DE 600854	A	19980702	200146
			EP 98112301	A	19980702	

Priority Applications (No Type Date): JP 97352956 A 19971222; JP 97183634 A 19970709

Patent Details:

Patent No Kind Lan Pg Main IPC Filing Notes

EP 890355 A1 E 12 A61K-007/06

Designated States (Regional): AL AT BE CH CY DE DK ES FI FR GB GR IE IT LI LT LU LV MC MK NL PT RO SE SI

JP 11029443 A 7 A61K-007/06

JP 11180837 A 8 A61K-007/13

US 6071504 A A61K-007/06

EP 890355 B1 E A61K-007/06

Designated States (Regional): DE FR GB NL

DE 69800854 E A61K-007/06 Based on patent EP 890355

Abstract (Basic): EP 890355 A

A hair treatment composition comprises: (a) a guanidium salt; (b) an alkalising agent other than the guanidium salt; and (c) a silicone.

USE - The composition permits brightening the colour tone of the hair or for dyeing the hair in good shades from a bright shade to a deep shade for a short period of time.

ADVANTAGE - The composition scarcely damages the hair, gives of little irritating odour and has low irritation to the scalp.

Dwg. 0/0

Title Terms: HAIR; TREAT; COMPOSITION; BRIGHTEN; COLOUR; TONE; HAIR; DYE;

HAIR; SHADE; COMPRISE; SALT; ALKALISED; AGENT; SALT; SILICONE

Derwent Class: A26; A96; D21; E14

International Patent Class (Main): A61K-007/06; A61K-007/13

International Patent Class (Additional): A61K-007/13

File Segment: CPI

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-29443

(43) 公開日 平成11年(1999) 2月2日

(51) Int.Cl.⁶

A 6 1 K 7/06
7/13

識別記号

F I

A 6 1 K 7/06
7/13

審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願平9-183634

(22) 出願日 平成9年(1997) 7月9日

(71) 出願人 000000918

花王株式会社

東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号

(72) 発明者 川相 哲也

東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会
社研究所内

(72) 発明者 小川 真彦

東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会
社研究所内

(72) 発明者 呉 尚久

東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会
社研究所内

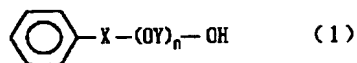
(74) 代理人 弁理士 有賀 三幸 (外3名)

(54) 【発明の名称】 毛髪処理剤組成物

(57) 【要約】

【解決手段】 アルカリ剤、及び式(1)

【化1】



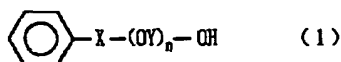
(nは0又は1を示し、n=0のとき、XはC₂~C₆のアルキレン基、アルケニレン基又はアルキレンオキシ基を示す。ただし、アルキレンオキシ基の酸素原子はベンゼン環と結合する。n=1のとき、X及びYはそれぞれC₁~C₆のアルキレン基を示す) で表わされる芳香族アルコールを含有し、使用時に酸化剤と混合して使用する毛髪処理剤組成物。

【効果】 短時間で毛髪の色調を明るくしたり、良好な色合いに染め上げることができ、また、得られた色調の色持ちが良く、しかも刺激臭が極めて少なく、頭皮に対する刺激が低い。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 (a) アルカリ剤、及び (b) 一般式 (1)

【化1】



(式中、nは0又は1を示し、n=0のとき、Xは炭素数2～6の直鎖又は分岐鎖のアルキレン基、アルケニレン基又はアルキレンオキシ基を示す。ただし、アルキレンオキシ基の酸素原子はベンゼン環と結合する。n=1のとき、X及びYはそれぞれ炭素数1～6の直鎖又は分岐鎖のアルキレン基を示す) で表わされる芳香族アルコールを含有し、使用時に酸化剤と混合して使用することを特徴とする毛髪処理剤組成物。

【請求項2】 成分(b)の芳香族アルコールが、フェニルエチルアルコール、フェノキシエタノール、フェノキシイソプロパノール、 α -メチルベンジルアルコール、 α 、 α -ジメチルベンジルアルコール、 α -プロピルベンジルアルコール、2-ベンジルオキシエタノール及び3-ベンジルオキシプロパノールから選ばれるものである請求項1記載の毛髪処理剤組成物。

【請求項3】 成分(b)の芳香族アルコールを0.1～30重量%含有する請求項1又は2記載の毛髪処理剤組成物。

【請求項4】 更に、(c) 酸化染料中間体を含有する請求項1～3のいずれか1項記載の毛髪処理剤組成物。

【請求項5】 成分(a)として、アンモニアを含有する請求項1～4のいずれか1項記載の毛髪処理剤組成物。

【請求項6】 成分(a)として、アンモニア、アルカノールアミン及びグアニジウム塩を含有する請求項1～4のいずれか1項記載の毛髪処理剤組成物。

【請求項7】 アンモニアを0.01～3重量%含有する請求項5又は6記載の毛髪処理剤組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、短時間で毛髪の色調を明るくしたり、良好な色合いに染め上げることができ、また、シャンプー等に対する堅牢性が高く、色持ちが良く、しかも刺激臭が極めて少なく、頭皮に対する刺激の低い毛髪処理剤組成物に関する。

【0002】

【従来の技術】酸化型毛髪漂白剤又は染毛剤には、第1剤中にアルカリ剤が配合されている。このアルカリ剤は、漂白又は染毛効果を高め、また毛髪中のメラニン顆粒の酸化分解を進行させて明るい色調を得るために配合されるものである。毛髪を地毛より明るい色調に漂白又は染色するためには、毛髪処理剤は十分な毛髪脱色力を伴わなければならないが、脱色力は、一般にアルカリ量に依存するため、このような目的で使用する場合には、

特に十分なアルカリ量が要求される。

【0003】従来、一般にアルカリ剤としては、アンモニアが使用されている。しかしながら、アンモニアは強い刺激臭を有しており、消費者にとっては施術時にかなりの不快感があるという大きな欠点を有する。

【0004】このため、アンモニアの代わりに、臭いの少ない有機アミン類を使用する試みがなされている(特開昭59-106413号公報、特開平1-213220号公報、特開平5-246827号公報等)。しかし、有機アミン類は脱色力が不十分であり、毛髪を明るい色合いに漂白又は染色することはできず、しかも多量に用いた場合には、頭皮への残存性が高いため、違和感や刺激を与えるという問題が生じる。また、特開平3-287521号公報には、水溶性染料を用いて髪を明るい色調に染めることができることが記載されているが、シャンプー等に対する堅牢性が低く、色持ちが悪いという問題があった。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】従って、本発明の目的は、十分な脱色力で、毛髪の色調を明るくしたり、良好な色合いに染め上げることができ、また、シャンプー等に対する堅牢性が高く、色持ちが良く、しかも刺激臭が少なく、頭皮への刺激の低い毛髪処理剤組成物を提供することにある。

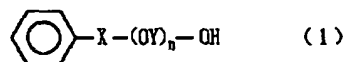
【0006】

【課題を解決するための手段】かかる実情において、本発明者らは鋭意研究を行った結果、アルカリ剤と、特定の芳香族アルコールを組合わせて用いれば、短時間で毛髪の色調を明るくしたり、良好な色合いに染め上げることができ、また、シャンプー等に対する堅牢性が高く、色持ちが良く、しかも刺激臭が極めて少なく、頭皮に対する刺激が低い毛髪処理剤組成物が得られることを見出し、本発明を完成した。

【0007】すなわち、本発明は、(a) アルカリ剤、及び (b) 一般式 (1)

【0008】

【化2】



【0009】(式中、nは0又は1を示し、n=0のとき、Xは炭素数2～6の直鎖又は分岐鎖のアルキレン基、アルケニレン基又はアルキレンオキシ基を示す。ただし、アルキレンオキシ基の酸素原子はベンゼン環と結合する。n=1のとき、X及びYはそれぞれ炭素数1～6の直鎖又は分岐鎖のアルキレン基を示す) で表わされる芳香族アルコールを含有し、使用時に酸化剤と混合して使用することを特徴とする毛髪処理剤組成物を提供するものである。

【0010】

【発明の実施の形態】本発明で用いられる成分(a)の

アルカリ剤としては、通常用いられるアンモニアの他、アルカノールアミン、グアニジウム塩等が挙げられる。これらのうち、アンモニアを配合する場合には、全組成中に0.01~3重量%、特に0.1~1重量%配合するのが、十分な効果が得られるとともに、刺激臭がなく、毛髪処理中に不快感を生じないので好ましい。

【0011】アルカノールアミンとしては、例えばモノエタノールアミン、ジエタノールアミン、トリエタノールアミン、モノプロパノールアミン、イソプロパノールアミン、ジプロパノールアミン、トリプロパノールアミン、2-アミノ-2-メチル-1, 3-プロパンジオール、2-アミノ-2-メチル-1-プロパノール、2-アミノ-2-ヒドロキシメチル-1, 3-プロパンジオール等が挙げられ、これらは1種又は2種以上を組合わせて用いることができる。アルカノールアミンを配合する場合には、全組成中に0.1~10重量%、特に0.5~3重量%配合するのが、十分な効果が得られるとともに、頭皮への違和感もなく好ましい。

【0012】グアニジウム塩としては、例えば塩酸グアニジン、硫酸グアニジン、硝酸グアニジン、炭酸グアニジン、重炭酸グアニジン、リン酸グアニジン、チオシアン酸グアニジン、ホウ酸グアニジン、スルファミン酸グアニジン、グアニジン有機酸塩等が挙げられ、これらは1種又は2種以上を組合わせて用いることができる。グアニジウム塩を配合する場合には、全組成中に0.1~10重量%、特に0.5~3重量%配合するのが、十分な効果が得られるとともに、酸化剤と混合する場合に、酸化剤の活性化反応が過剰に促進されすぎず、好ましい。

【0013】成分(a)のアルカリ剤としては、アンモニアを用いるのが好ましく、特に、アンモニア、アルカノールアミン及びグアニジウム塩を組合わせて用いると、アンモニアの配合量をより低減することができ、好ましい。なお、アルカリ剤の配合量の合計は、全組成中に0.01~20重量%、特に0.1~7重量%であるのが好ましい。

【0014】本発明で用いられる成分(b)の芳香族アルコールは前記一般式(1)で表わされるものであり、式中、 $n=0$ のとき、 X としては炭素数2~4の直鎖又は分岐鎖のアルキレン基又はアルキレンオキシ基が好ましく、 $n=1$ のとき、 X はメチレン基、 Y は炭素数2~6の直鎖アルキレン基が好ましい。

【0015】成分(b)の芳香族アルコールとしては、具体的にはフェニルエチルアルコール、フェノキシエタノール、フェノキシイソプロパノール、 α -メチルベンジルアルコール、 α , α -ジメチルベンジルアルコール、 α -プロピルベンジルアルコール、2-ベンジルオキシエタノール、3-ベンジルオキシブタノール等が挙げられ、特にフェニルエチルアルコール、2-ベンジルオキシエタノールが好ましい。

【0016】成分(b)の芳香族アルコールは、1種又は2種以上を組合わせて用いることができ、全組成中に0.1~30重量%配合するのが好ましく、特に1~10重量%、更に3~7重量%配合すると、十分な脱色、染色力が得られるとともに、頭皮に対する違和感がないので好ましい。

【0017】本発明の毛髪処理剤組成物には、更に成分(c)として、酸化染料中間体を配合することができ、毛髪を良好な色合いに染め上げることができるとともに、色持ちが良く、シャンプー等に対する堅牢性がより高くなる。かかる酸化染料中間体としては、通常酸化型染毛剤に使用されている公知の顕色物質及びカップリング物質を用いることができる。

【0018】これらのうち、顕色物質としては、例えばp-フェニレンジアミン、p-トルイレンジアミン、N-メチル-p-フェニレンジアミン、N, N-ジメチル-p-フェニレンジアミン、N, N-ジエチル-2-メチル-p-フェニレンジアミン、N-エチル-N-(ヒドロキシエチル)-p-フェニレンジアミン、クロル-p-フェニレンジアミン、2-(2'-ヒドロキシエチルアミノ)-5-アミノトルエン、N, N-ビス-(2-ヒドロキシエチル)-p-フェニレンジアミン、メトキシ-p-フェニレンジアミン、2, 6-ジクロル-p-フェニレンジアミン、2-クロル-6-ブロム-p-フェニレンジアミン、2-クロル-6-メチル-p-フェニレンジアミン、6-メトキシ-3-メチル-p-フェニレンジアミン、2, 5-ジアミノアニソール、N-(2-ヒドロキシプロピル)-p-フェニレンジアミン、N-2-メトキシエチル-p-フェニレンジアミン等の1種又は数種の NH_2 -基、 NHR -基又は NHR_2 -基(R は炭素数1~4のアルキル基又はヒドロキシアルキル基を示す)を有するp-フェニレンジアミン類；2, 5-ジアミノピリジン誘導体；p-アミノフェノール、2-メチル-4-アミノフェノール、3-メチル-4-アミノフェノール、2-クロロ-4-アミノフェノール、3-クロロ-4-アミノフェノール、2, 6-ジメチル-4-アミノフェノール、3, 5-ジメチル-4-アミノフェノール、2, 3-ジメチル-4-アミノフェノール、2, 5-ジメチル-4-アミノフェノール、2, 4-ジアミノフェノール、5-アミノサリチル酸等のp-アミノフェノール類、o-アミノフェノール類、o-フェニレンジアミン類等が挙げられる。

【0019】また、カップリング物質としては、例えば α -ナフトール、o-クレゾール、m-クレゾール、2, 6-ジメチルフェノール、2, 5-ジメチルフェノール、3, 4-ジメチルフェノール、3, 5-ジメチルフェノール、ベンズカテキン、ピロガロール、1, 5-ジヒドロキシナフタレン、1, 7-ジヒドロキシナフタレン、5-アミノ-2-メチルフェノール、5-(2'-ヒドロキシエチルアミノ)-4-メトキシ-2-メチ

ルフェノール、ヒドロキノ、2, 4-ジアミノアニソール、m-トルイレンジアミン、4-アミノフェノール、レゾルシン、レゾルシンモノメチルエーテル、m-フェニレンジアミン、1-フェニル-3-メチル-5-ピラゾロン、1-フェニル-3-アミノ-5-ピラゾロン、1-フェニル-3, 5-ジケト-ピラゾリジン、1-メチル-7-ジメチルアミノ-4-ヒドロキシ-2-キノロン、m-アミノフェノール、4-クロロレゾルシン、2-メチルレゾルシン、2, 4-ジアミノフェノキシエタノール、2, 6-ジアミノピリジン、3, 5-ジアミノトリフロロメチルベンゼン、2, 4-ジアミノフロロベンゼン、3, 5-ジアミノフロロベンゼン、2, 4-ジアミノ-6-ヒドロキシピリミジン、2, 4, 6-トリアミノピリミジン、2-アミノ-4, 6-ジヒドロキシピリミジン、4-アミノ-2, 6-ジヒドロキシピリミジン、4, 6-ジアミノ-2-ヒドロキシピリミジン等が挙げられる。

【0020】これら顔色物質及びカップリング物質は、それぞれ1種又は2種以上を組合せて用いることができ、その配合量は特に制限されないが、全組成中に0.01~20重量%、特に0.5~10重量%が好ましい。

【0021】本発明の毛髪処理剤組成物は、更に直接染料を配合して付加的に毛髪の色合いを変化させることもできる。このような直接染料としては、例えば日本ヘアカラー工業会発行の染料原料基準に記載のもの、具体的には2-アミノ-4-ニトロフェノール、2-アミノ-5-ニトロフェノール、塩酸ニトロ-p-フェニレンジアミン、ニトロ-p-フェニレンジアミン、p-アミノフェニルスルファミン酸、p-ニトロ-o-フェニレンジアミン、ピクラミン酸、ピクラミン酸ナトリウム、ピクリン酸、クロムブラウンRH、ヘマテイン、硫酸ニトロ-p-フェニレンジアミン、硫酸p-ニトロ-o-フェニレンジアミン、硫酸p-ニトロ-m-フェニレンジアミン、1-アミノ-4-メチルアミノアントラキノン、1, 4-ジアミノアントラキノン；酸性染料である赤色2号、赤色3号、赤色102号、赤色104号、赤色105号、赤色106号、黄色4号、黄色5号、緑色3号、青色1号、青色2号、赤色201号、赤色227号、赤色230号、赤色231号、赤色232号、橙205号、橙207号、黄色202号、黄色203号、緑色201号、緑色204号、緑色205号、青色202号、青色203号、青色205号、かっ色201号、赤色401号、赤色502号、赤色503号、赤色504号、赤色506号、橙402号、黄色402号、黄色403号、黄色406号、黄色407号、緑色401号、緑色402号、紫色401号、黒401号；油溶性染料である赤色215号、赤色218号、赤色225号、橙201号、橙206号、黄色201号、黄色204号、緑色202号、紫色201号、赤色501号、赤色505号、橙403号、黄色404号、黄色405号、青色403号；塩基性染料である赤色213号、赤色214号；及びArianor社の塩基性染料のSienna Brow

n, Mahogany, Madder Red, Steel Blue, Straw Yellow等が挙げられる。これらのうち、特にニトロフェニレンジアミン、ニトロアミノフェノール、アントラキノン染料が好ましい。

【0022】これらの直接染料を本発明の毛髪処理剤組成物中に配合する場合、その配合量は全量で、全組成中に0.001~20重量%、特に0.01~10重量%が好ましい。

【0023】本発明の毛髪処理剤組成物において、酸化染料中間体を配合した場合、空気中の酸素によっても酸化カップリングを生起し、毛髪等を染色するが、化学的酸化剤を添加することにより酸化カップリングを生起させるのがより好ましい。特に好ましい酸化剤としては、過酸化水素；過酸化水素が尿素、メラミン又は硼酸ナトリウムに付加した生成物；このような過酸化水素付加物と過酸化カリウム-二硫酸との混合物等が挙げられる。

【0024】本発明の毛髪処理剤組成物中には、上記成分の他に、通常化粧品分野で用いられる他の任意成分を本発明の効果を妨げない範囲で加えることができる。このような任意成分としては、例えばアラビアガム、ローカストビーンガム、アルギン酸ナトリウム、キサンタンガム、セルロース誘導体、架橋ポリアクリル酸等の天然又は合成の高分子、脂肪酸等の粘度・ゲル強度調整剤；アボカド油、ホホバ油、マカデミアンナッツ油、オリーブ油のグリセライド等の油脂類；ミツロウ、ラノリン等のロウ類；流動パラフィン、固形パラフィン、イソパラフィン、スクワラン等の炭化水素類；プロピレングリコール、グリセリン、1,3-ブチレングリコール、ポリグリセリン、ソルビトール等の多価アルコール類；ミリスチン酸イソプロピル、ミリスチン酸オクチルドデシル等のエステル類；オレイン酸ジエタノールアミド、ラウリン酸ジエタノールアミド等のアミド類；ジメチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、ポリエーテル変性シリコーン、アミノ変性シリコーン等のシリコーン誘導体；塩化ステアリルトリメチルアンモニウム、ジステアリルジメチルアンモニウム等のカチオン性界面活性剤；ポリオキシエチレンラウリルエーテルサルフェート、ポリオキシエチレンラウリルスルホコハク酸塩などのアニオン性界面活性剤；ラウリルヒドロキシルホベタイン、ラウリルジメチルカルボベタイン等の両性界面活性剤；ポリオキシエチレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル等の非イオン界面活性剤；ポリビニルピロリドン、ビニルピロリドンと酢酸ビニルとの共重合体等の非イオン性高分子；アクリル酸及び／又はメタクリル酸と（メタ）アクリル酸アルキルエステルとの共重合体等のアニオン性高分子；N-メタクリロイルエチル-N, N-ジメチルアンモニウム- α -N-メチルカルボキシベタインとメタクリル酸ブチルとの共重合体等の両性高分子；コラーゲンやケラチンの加水分解物等の蛋白誘導体やアミノ酸類；バラベン

等の防腐剤；EDTA-Na等のキレート剤；フェナセチン、8-オキシキノリン等の安定化剤；チオグリコール酸、亜硫酸塩、アスコルビン酸等の酸化防止剤；その他、植物抽出物、生薬抽出物、ビタミン類、色素、香料、顔料、紫外線吸収剤等が挙げられる。

【0025】本発明の毛髪処理剤組成物は、通常の方法に従って製造することができ、その剤型は特に制限されず、例えば透明液状、乳液状、クリーム状、ゲル状、ペースト状、ムース状等とすることができる。なお、本発明の毛髪処理剤組成物のpHとしては、8～12、特に9～11の範囲が好ましく、pHが8未満では本発明の効果が十分に得られず、12を超えると頭皮への刺激が強くなり、実用上使用できない。このpHの調整は、例えば塩化アンモニウム、炭酸アンモニウム、重炭酸アンモニウム、リン酸アンモニウム、硝酸アンモニウム、硫酸アンモニウム等の緩衝剤により、適宜行うことができる。

【0026】本発明の毛髪処理剤組成物は、使用に際し、通常、過酸化水素等を含有する酸化剤組成物と1：1～1：3（重量比）の割合で混合される。

【0027】本発明の毛髪処理剤組成物を用いて毛髪を漂白又は染毛処理するには、例えば本発明の毛髪処理剤組成物に酸化剤組成物を添加して調製した混合液を15～40℃の温度で毛髪に適用し、1～50分、好ましくは10～30分前後の作用時間をおいて毛髪を洗浄した後、乾燥すればよい。

【0028】

【実施例】以下、実施例を挙げて本発明を更に詳細に説明するが、本発明はこれらに限定されるものではない。

【0029】実施例1及び比較例1～6

表1に示す組成の毛髪処理剤組成物（毛髪漂白剤）を常法により製造した。得られた毛髪処理剤組成物と、表2に示す組成の酸化剤水溶液を等量（重量）加えて混合し、それぞれ黒髪トレスに塗布し、30℃で15分間放置した後、すすぎ及びシャンプーを行い、乾燥した。これらのトレスについて、下記方法に従い明るさの程度を評価した。また、刺激臭及び頭皮への刺激性についても下記方法に従い評価した。これらの結果を表1に併せて示す。

【0030】（1）明るさ：漂白処理した黒髪トレスを、目視により以下の基準で評価した。

◎：かなり明るくなる。

○：明るくなる。

△：わずかに明るくなる。

×：ほとんど変わらない。

【0031】（2）刺激臭：毛髪処理剤組成物と酸化剤水溶液を手混合し、その混合物の臭気について以下の基準で評価した。

○：刺激臭をほとんど感じない。

△：刺激臭をやや感じる。

×：刺激臭を強く感じる。

【0032】（3）頭皮への刺激：毛髪処理剤組成物と酸化剤水溶液の等量混合物を頭皮に塗布後、30分間放置し、その間の頭皮への刺激を以下の基準で評価した。

○：刺激をほとんど感じない。

△：刺激をやや感じる。

×：刺激を強く感じる。

【0033】

【表1】

成 分（重量％）		本発明品	比 較 品					
		1	1	2	3	4	5	6
アンモニア水（28％）*		0.8	0.8	—	2.8	—	—	0.8
モノエタノールアミン		2.0	2.0	—	—	10.0	—	5.0
炭酸 Guanidine		1.5	1.5	—	—	—	10.0	5.0
2-ベンジルオキシエタノール		5.0	—	5.0	—	—	—	—
エタノール		15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0
プロピレングリコール		10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
オレイン酸		10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
オレイン酸ジエタノールアミド		8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0
オレイルアルコール		2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
ポリオキシエチレンオクテリ ドデシルエーテル(20B.0.)		10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
エデト酸四ナトリウム		0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
香料		0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
塩化アンモニウム		pHを9.5に調整する量						
水		バ ラ ン ス						
計		100.0						
評価項目	明るさ	◎	△	×	○	×	×	△
	刺激臭	○	○	○	×	○	○	○
	頭皮への刺激	○	○	○	×	×	×	×

*：配合量は、アンモニア量として示した。

【0034】

【表2】

成 分	配合量 (重量%)
過酸化水素	6.0
メチルパラベン	0.1
リン酸	pHを3.5に調整する量
水	バ ラ ン ス

【0035】実施例2

表3に示す組成の毛髪処理剤組成物（染毛剤組成物）を常法により製造した。得られた毛髪処理剤組成物と実施例1で用いた酸化剤水溶液をそれぞれ等量（重量）加えて混合した。これを白髪トレス及び黒髪トレスに塗布し、30℃で15分間放置した後、すすぎ及びシャンプーを行い、乾燥した。これらのトレスについて、染色性を目視により評価した。更に、染色した白髪トレスを、

市販シャンプーで20回洗髪操作を繰り返した後、色持ちを目視により評価した。その結果、本発明品はいずれも均一に、かつしっかり染毛することができ、緑色があった濃い金色の色調が得られたのに対し、比較品7では、ややむらがあった。また、本発明品で染毛した黒髪トレスは比較品7で染色した場合に比べ、より自然な明るい色調に染め上げることができた。また、本発明品で染毛した白髪トレスは、20回の洗髪後も未シャンプーとあまり差が認められなかったが、比較品7では、やや色落ちが認められた。本発明品2は特に色持ちが良く、シャンプー等に対する堅牢性が高かった。更に、本発明品は刺激臭が極めて少なく、頭皮に対する刺激の低いものであった。

【0036】

【表3】

成 分 (重量%)	本 発 明 品		比較品
	2	3	7
アンモニア水 (28%)*	0.8	0.8	0.8
モノエタノールアミン	2.0	2.0	2.0
炭酸グアニジン	1.5	1.5	1.5
フェニルエチルアルコール	5.0	5.0	—
トルエン-2,5-ジアミン	1.0	—	1.0
レゾルシン	1.0	—	1.0
黄色4号	—	1.0	—
エタノール	15.0	15.0	15.0
塩化アンモニウム	pHを9.5に調整する量		
水	バ ラ ン ス		
計	100.0		

*: 配合量は、アンモニア量として示した。

【0037】実施例3

表4に示す組成の毛髪処理剤組成物（染毛剤組成物）を常法により製造し、実施例2と同様にして染色性を評価した。その結果、本発明品は均一に、かつしっかり染毛することができ、栗色の色調が得られたのに対し、比較品では、ややむらがあった。また、本発明品で染毛した黒髪トレスは比較品で染毛した場合に比べ、より自然な明るい色調に染め上げることができた。更に、本発明品は刺激臭が極めて少なく、頭皮に対する刺激の低いものであり、しかも得られた色調の色持ちが良いものであった。

【0038】

【表4】

成 分 (重量%)	本発明品	比較品
	4	9
アンモニア水 (28%)*	0.8	0.8
2-アミノ-2-メチル-1-プロパノール	2.0	2.0
炭酸グアニジン	1.5	1.5
2-ベンジルオキシエタノール	5.0	—
パラアミノフェノール	1.0	1.0
メタアミノフェノール	0.4	0.4
レゾルシン	0.6	0.6
エタノール	15.0	15.0
プロピレングリコール	10.0	10.0
オレイン酸	10.0	10.0
オレイン酸ジエタノールアミド	8.0	8.0
オレイルアルコール	2.0	2.0
ポリオキシエチレンオクチルドデシルエーテル(20B.0.)	10.0	10.0
エドト酸四ナトリウム	0.1	0.1
香料	0.4	0.4
塩化アンモニウム	pHを9.5に調整する量	
水	バ ラ ン ス	
計	100.0	

*: 配合量は、アンモニア量として示した。

【0039】

【発明の効果】本発明の毛髪処理剤組成物は、短時間で毛髪の色調を明るくしたり、良好な色合いに染め上げる

ことができ、またシャンプー等に対する堅牢性が高く、
得られた色調の色持ちが良く、しかも刺激臭が極めて少

なく、頭皮に対する刺激が低いものである。